



1 「当時、鹿角で桃の栽培は無理と言われたが、今では農業試験場の方もビックリするほどの良質な桃が取穫できている」と胸を張るかつの北限の桃生産部会長佐藤一さん。2 4月下旬～5月上旬に素晴らしい眺めを見せる桃の花。3 出発式には地元「花輪にここ保育園」の園児たちのほか、ミス・フレッシュやスキッチ、たんぼ小町ちゃんも駆け付けた。4 営農センター選果場で行なわれた出発式で、あいさつに立った田中組合長。「生産者の努力で今年も上々の出来」5 出発式を前に鹿角市長へ贈呈。「味が良い、甘くて美味しい」と市長。(写真右から:かつの北限の桃生産部会副部会長豊田氏、部会長佐藤氏、児玉市長、副部会長田中氏) 6 Aコープかつの店で「かつの北限の桃フェア」を開催。7 主力品種の「川中島白桃」。



JAかつの かつの北限の桃

「かつの北限の桃」を初めて食べました。美味しかったです! これは「日本一北に位置する産地」という意味ですか。詳しく教えてください。



ナビゲーター
JAかつの
営農経済部 営農販売課
根本 隆嘉さん



特徴を教えてください。
昼夜の寒暖差が大きい準高冷地でじっくり育った「北限の桃」は、甘くて香高く着色が良いのが特徴です。市場での評価も上々で、今年も昨年と同じ価格を維持できる見込みです。全体の約6割を関東市場に、約3割を県内に出荷しています。残暑の厳しい首都圏などでは秋口に出回る桃はともて人気があり、出荷がお彼岸の時期とも重なることで需要は伸びています。今年も降雪の遅れや春先の降雪などで生育が一週間ほど遅れがありました。順調に収穫期を迎えることができました。

「かつの北限の桃」の「北限」とは?
「北限」の定義は、全国の桃産地リレーのアンカーを担っているということです。山梨県や福島県、長野県などの有名産地の出荷最盛期が7月下旬～8月上旬なのに対し、「北限の桃」は例年9月上旬～中旬に出荷。今年も9月8日が出発式となりました。現在、青森県でも桃は生産されていますが、「北限の桃」より早く出荷されています。また、「かつの北限の桃」というのは、JAかつの管内で収穫される様々な品種の桃の総称です。管内の桃生産の草分けである現かつの北限の桃生産部会長の佐藤一さんをはじめとする5人の生産者が「北限の桃」と当時から命名していたのですが、需要が増えたことで平成15年にJAかつのが「かつの北限の桃」として商標登録をしました。特徴ある桃をPRしてブランド価値を高めていきたいと思っています。

これからの目標を教えてください。
出荷量も順調に増え、毎年8月末までJAのホームページからインターネット予約を受け付けているのですが、予約して下さるお客様が年々増えています。今後、品質を安定させるために、品種の絞り込みと生産技術の確立が必要だと考えています。
地域を代表する特産品となるように、生産者とJAが一丸となって努めていきたいですね。

生産規模や品種などを教えてください。
現在部会員は159名。57haの園地で栽培しています。管内は古くからりんご栽培が盛んな土地柄ということもあり、樹種複合というかたちで桃の生産に新規参入する生産者が年々増え、果樹農家全体の2/3が複合栽培です。りんごの出荷箱が20kgなのに対し桃は8kgと比較的作業が楽なことも新たに参入しやすい理由だと思います。全体の82%を占める「川中島白桃」を中心に「あかつき」、「希少ながら黄金桃」など10種類を超える品種を栽培しています。出荷はある程度品種を絞っていますが、どの品種でも安定した品質を市場出荷するために平成13年から光センサー選果を導入。最低糖度を10.5に設定し、着色や大きさを4等級に選別しています。「特秀」は2.5kg入の化粧箱に入れて販売しており、贈答用としてとても人気があります。

DATA

美味しい食べ方
やや軟らかさを感じ始めた時が食べごろで、桃特有の甘い香りがします。食べる1～2時間前に冷蔵庫で冷やすのがおすすめ。長時間の冷蔵はむしろ食味を損ないますのでご注意ください!

期間限定!
果汁100%
かつの北限の桃
ジュース



平成23年度状況

- 生産者人数…159名(前年149名)
- 生産面積…約57ha(前年53ha)
- 集荷計画…388,000kg(前年実績236,987kg)
- 販売計画額…120,000千円(前年実績83,573千円)
- 販売額構成比・H22
川中島白桃82%、あかつき8.1%、その他9.9%

■お問い合わせ先
JAかつの 営農販売課
TEL.0186-23-2497
http://www.ja-kazuno.or.jp